

2019 年度

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科

入学者選抜試験 第一次試験問題 素描

問題

石膏像と鏡に映った自分、そして虫眼鏡を自由に組み合わせて一枚の素描を描きなさい。

■補足説明

用紙は縦位置で使用しなさい。

■試験時間 10:30～16:00

昼食時間 12:00～13:00（昼食時間に試験を続けてもよい）

■配布物

問題用紙、
卓上鏡、虫眼鏡、木炭紙大画用紙（イラストボード）1枚、
カルトン、クリップ2個、下書き用紙（A4）3枚

■注意

使用できるのは、鉛筆素描に必要な用具一式のみ。
他の受験生に迷惑のかかる行為を禁止する。
試験終了後、この問題用紙は回収します。

2019年度

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科

入学者選抜試験 第一次試験問題 小論文

問題1

課題文Aの傍線部[1]、著者 川俣正が考える「文化の包容力」とは何かを、400字以内で説明しなさい。

解答は、解答用紙 問1-①に記述しなさい。

また、課題文Aを読み、「現代美術がわからない」という発言に対して、自分なりの回答を、手紙の形式で400字以内で記述しなさい。手紙の宛先は、自分で決めること。

解答は、解答用紙 問1-②に記述しなさい。

問題2

課題文Bを読み、著者イヨネスコの幼児体験を踏まえつつ、自分の幼少期の記憶を分析的に、800字以内で記述しなさい。

解答は、解答用紙 問2に記入しなさい。

問題3

問題2に対する自分自身の解答を元に、配布された色鉛筆を使って、幼少期の体験のイメージを図示しなさい。

解答は、解答用紙 問3に展開しなさい。

※出典：課題文A 川俣正「アートレス」(フィルムアート社 2001年) [p159~163]

：課題文B E.イヨネスコ 大久保輝臣訳「想像の小怪 発見」(新潮社 1976年) [p54~66]

※記述にあたっては、縦書きで書くこと。

※試験終了後、この問題用紙は回収します。

試験時間 10:30~16:00

昼食時間 12:00~13:00 (昼食時間に解答を続けてもよい)

2019 年度 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科
入学者選抜試験 総合実技 1 日目 (3 月 2 日)

問題 1

鏡に映った頭部と、手を組み合わせた自刻像(首から上の像)をつくりなさい。

※手は頭部から離れると乾燥時に壊れてしまうので、ひとかたまりになるように作ること。

※配布された材料のみを使用しなさい。(全てを使用しなくてもよい)

※制作台 (45cm×45cm) の上に乗せて提出しなさい。高さは 60cm 以下にすること。

問題 2

問題 1 で制作した自刻像について 260 字以上、300 字以内で説明しなさい。

※解答用紙に 260 字以上、300 字以内、縦書きで記述。

試験時間：10 時～15 時 30 分

昼食時間：12 時～13 時 (昼食時間に解答を続けてもよい)

作品提出：本日 15 時 30 分

※ 試験終了後、この用紙は回収します。

2019 年度 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科
入学者選抜試験 総合実技 1 日目 (3 月 2 日)

配布物リスト

【材料】

水粘土 7kg

シュロ縄 5m

【配布物】

配布物リスト、注意事項 1 枚 (この用紙)
自刻像のベースの作り方 1 枚 (参考資料)
卓上鏡
手鏡
粘土ペラ
彫塑用制作台 (45cm×45cm)

紐付きビニール袋 (提出用)
透明ポリ袋 (運搬用)
A4 コピー紙 5 枚 (スケッチ等に使用)
たる木 (20cm)
タオル (手拭き用)
ウェットティッシュ (手拭き用)

注意事項

- ・床や白壁を材料で汚さないこと。
- ・手を洗う際には、トイレは使用せず各所に設置されている「手洗い場」や、ウェットティッシュを使用すること。
- ・タオル、ウェットティッシュは、手を拭く際に使用すること。※制作には使用しないこと。
- ・紐付きビニール袋は、試験終了後に提出する際、作品の乾燥防止で被せるために使用します。※制作には使用しないこと。
- ・透明ポリ袋は、シュロ縄を「手洗い場」で濡らし、自分の席まで運ぶときに床を濡らさないようにするために使用します。※制作には使用しないこと。
- ・包装紙等のゴミ類はすべて、足元にあるブルーコンテナに捨てること。

※ 試験終了後、この用紙は回収します。